

広域的な市街地等汚濁負荷削減手法等に関する調査研究

全体期間

1993.10～2001.3

本文161P～170P

(目 的)

市街地からの非特定汚染源負荷は、主として降雨の初期段階における市街地の洗い出し（フラッシング）により湖沼に流入するものと考えられるが、これまで十分な調査研究が行われているとはいえ、汚濁負荷の性状、流出機構等、解明されていない面があり、有効な削減対策が講じられていない状況にある。

そこで、平成5年に「市街地排水浄化対策研究会」が設置され、各県のモデル地区において雨天時汚濁負荷流出調査や解析の検討を行ってきた。平成9年度には、それらの研究成果をもとに、これからノンポイント対策を実施しようとする地方公共団体が、汚濁負荷の実態を把握し、適正な対策が計画できるように、基本的な検討事項や手順を示した「市街地のノンポイント負荷に関する手引き（実態把握と予測手法及び対策）」、建設省都市局下水道部監修、平成10年3月、(財)下水道新技術推進機構」を発刊した。

平成10年度より、対策施設の実証実験、実施設の機能評価を実施し、各県で得られた結果を踏まえ「市街地のノンポイント対策計画マニュアル（案）」を平成12年度に取りまとめ発刊予定である。今回の報告は、平成11年度に実施された各県の実証実験、実施設の機能評価についてその概要を報告する。

(内 容)

1. 茨城県

牛久地区刈谷のモデル地区において雨天時ノンポイント負荷の流出特性から効果的と考えられる対策として、対象区域流末に貯留池及びろ過施設による実証実験を行った。

2. 千葉県

我孫子市湖北台団地のモデル排水区では、我が国初のノンポイント対策専用の貯留池が平成10年4月に供用開始し、対策効果の調査を行った。平成10年度の調査を踏まえ、堰の改造を行い、効率的な分水割合を得るとともに、実施設における対策効果の実態を現地調査を通じて把握を行った。

3. 滋賀県

滋賀県守山市のモデル排水区の流末に設置した貯留池、沈殿池及びヨシとケナフを用いた植生浄化について雨天時におけるノンポイント負荷削減対策の実証実験を行い、汚濁負荷量の削減効果の把握を行った。

4. 長野県

岡谷市のモデル排水区の流末の歩道下に小規模の貯留施設を設置し、実態調査を行い施設の負荷削減効果及び対策施設のあり方（維持管理の容易な構造等）について検討を行った。

建設省都市局下水道部、茨城県、千葉県、滋賀県、長野県からの受託研究

研究担当者：篠田 康弘、長谷川 昭夫、小林 卓矢、曾我 誠意、田中 孝、大塚 正典

キーワード

ノンポイント、貯留池、沈殿池、植生浄化、ろ過